



SVC新聞7月号

☆☆☆ <http://shinmachi-sc.org/club01.html> ☆☆☆

沖縄派遣事業とニュルンベルク市青少年国際交流事業とは

代表指導者 小出利一

6月23日、この日は日本スポーツ少年団設立記念日、オリンピックデー、そして、沖縄戦の組織的戦闘が終結した沖縄戦慰霊の日です。また、6月26日は、1996年20歳で病のために亡くなった旧箕郷町のスポーツ少年団教え子の命日です。

私が沖縄戦のことを初めて深く知ったのは1997年3月、大学病院の業務で初沖縄の際に糸満市スポーツ少年団指導者の神谷さんが案内をして平和祈念公園を訪問した時でした。この時の衝撃は今でも覚えています。私は、神谷さんと別れる時に「神谷さん、そして沖縄の皆さんごめんなさい。なにも知らなくて学んでいなくてごめんなさい」と謝罪しました。その時、神谷さんが「新町の子ども達を連れて来てください。私から伝えるから。」と言ってくれたことが沖縄派遣事業のきっかけです。

私と神谷さんは、1993年9月にドイツへスポーツ少年団指導者海外派遣で一緒になり、それ以来ずっとお付き合いをしています。

1945年当時、沖縄で本当にあった歴史。その後、アメリカ統治下の歴史。現在も多くのアメリカ軍基地がある現実と歴史。その全てを学ぶことで、私が沖縄の格言で最も大切にしている「命こそ宝(ぬちどうたから)」を多感期になる中学生時代に学んで欲しいという願いと神谷さんとの約束を守り、日本人として日本近代史を伝えるべきという使命感のようなものが沖縄派遣事業を開始した理由です。

今年は、ロシアによるウクライナ侵略戦争が始まってしまい、私達は「戦争と平和」について真剣に学ぶ年になっています。沖縄戦で亡くなった多くの人達も世界中の戦火で亡くなった人達も20歳で亡くなった教え子も共通しているのは「もっと生きていたかった。自分の夢に向かって生きていたかった」と言うことです。

今年のニュルンベルク派遣事業は、ドイツ・ウクライナ・日本(新町)の青少年がニュルンベルク市とドレスデン市の戦争遺構で「戦争と平和」について意見交換を行います。簡単に結論は出ないことだから、3カ国の青少年達が真剣に議論する機会を持てることは良い事だと思っています。友人がいる国を攻撃することはできません。

スポーツ少年団団員綱領には「わたくしたちは、スポーツをとおして世界中の友だちと力を合わせ、平和な世界をつくります」とあります。そのことを実践する事業が沖縄派遣事業とニュルンベルクスポーツユース青少年国際交流事業です。

【通常活動】

7月3日・10日・17日・24日・31日 毎週日曜日 10時から12時

新町第一小学校校庭^体育館 持ち物：飲み物・タオル・体育館シューズ

今年の夏は、猛暑のようです。熱中症対策として水分は多めに持参してください。

※ 熱中症初期症状とコロナ感染症の初期症状は酷似していることから、指導者として団員を守るために熱中症になるような活動はさけています。そのため、マスク着用について、着用する時と外す時を自分で判断できる力を育みたい思いで指導していることをご理解ください。